

## 奈良市まちづくり市民会議（第7回）概要記録

■日 時： 平成22年2月19日（金）午後7時00分～午後9時00分

■場 所： 奈良市役所 中央棟6階 正庁

### ■プログラム：

1. 開会
2. 市民会議代表・副代表の選出（結果報告）
3. グループワーク（分科会ごと）『奈良市全体の将来都市像づくり』
4. グループ発表 「奈良市全体の将来像」（案）
5. 「奈良市全体の将来像」（案）のまとめ（全体での話し合い）
6. 閉会

### ■会議資料：

- ①各委員の考えた市全体の将来像
- ②奈良市まちづくり市民会議 提案書（素案）
- ③第8回会議での発表について
- ④奈良市まちづくり市民会議（第7回）のふりかえり
- ⑤参考資料  
奈良市民意識調査報告書 平成21年度（抜粋）

※①は事前配布、②～⑤は受付時に配布

### ■出席者：

#### 【市民公募委員】44名（欠席8名）

赤尾 隆、アダルシュ シャルマ、阿部 智子、井上 雅由、植田 正博、榎本 正範、岡本 胤継、  
奥村 麻希子、北 良夫、北浦 由香、北野 剛人、木村 宥子、熊野 磯一、小西 完治、  
笹部 和男、佐藤 正幸、サマン ペレラ、澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、  
武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、反田 博俊、友田 達郎、中川 徹、橋本 光男、  
長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 朝子、濱 恵介、春田 稔、本間 香貴、松永 洋介、松森 重博、  
宮本 郁江、村田 勝彦、元島 満義、森口 哲也、山本 素世、山本 善徳、吉田 俊夫、

【事務局】6名（企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 田中 利也、主幹 奥田 喜司、  
主任 木村 和弘、引野 あずみ、山岸 公彦）

【ファシリテーター】6名（山崎 亮、西上 ありさ、醍醐 孝典、  
六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子）

### ■傍聴者：0名



## ■会議の概要：

### 1. 開会

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 44 名が出席。

○会議のルールの再確認：

第 1 回会議のグループワークで皆様が検討された会議ルールの中に、「一方的に自分の意見だけを言わないようにする」、「他の人を否定したり、けなしたりしないようにする」などがある。皆様重々承知のことと思うが、各委員の発言される意見を尊重し、前向きに、積極的な提案をしていただきたい。

○奈良市まちづくり市民会議 提案書（素案）について：

⇒ <会議資料：②奈良市まちづくり市民会議 提案書（素案）>参照。

『2. 各分科会が考えた「テーマ別将来像」』については、検討の途中段階のものや空白の部分もあるが、概ねこのような形式でまとめたいと考えている。今後は、事務局から委員の皆様へ、書面で修正案を送付するといった方法を取りながら、調整し、第 8 回までに完成させたいと考えている。

○第 8 回会議（市長への発表）について：

⇒ <会議資料：③第 8 回会議での発表について>参照。

第 8 回会議における市長への発表の時間配分、発表時に使用するパワーポイントの見本を整理した資料を配布している。本日の会議のタイムスケジュール上、説明時間は割愛させていただきたい。実際にこのパワーポイントをパソコン上で見たい方は、会議終了後に事務局に声をかけてほしい。

○第 6 回会議録について：

第 6 回の会議録は作成作業が間に合わず、今回は配布できなかった。急ぎ作成するので、今しばらくお待ちいただきたい。

### 2. 市民会議代表・副代表の選出（結果報告）

事務局（企画政策課 引野）より説明。

○市民会議代表・副代表の選出経過について：

本日の会議開始前に、各分科会の代表が集まり、20 分間話し合ったが、代表・副代表は決定しなかったため、後日、改めて話し合いの場を持ち、検討する予定。代表・副代表が決定した時点で、委員の皆様にお知らせする。

○第 4 分科会副代表の紹介：

【第 4 分科会】副代表：岡本 胤継，山本 素世

### 3. グループワーク（分科会ごと）『奈良市全体の将来都市像づくり』

#### 【グループワーク】

・各委員が考えた市全体の将来像、各分科会のテーマ別将来像や前回の事務局からの説明を踏まえて、奈良市全体の将来像について話し合い。

⇒ <会議資料：①各委員の考えた市全体の将来像>参照。

グループファシリテーターが、必要に応じて話し合いの概要を模造紙等に整理。

⇒ <グループワークの記録>参照。

#### 4. グループ発表 「奈良市全体の将来像」(案)

ファシリテーター(西上)が進行。

○各分科会の発表:3分間。

(3分経過時(発表終了時)にベル1回で合図。)

##### <各分科会の発表の概要>

###### **第1分科会発表**

本分科会では、「いつまでも笑顔あふれるまち奈良」が、奈良市全体の将来像にふさわしいのではないかと考えました。大切なことは「いつまでも」という点で、今だけが幸せであるのではなく、将来にわたっても幸せが続くことが重要と考えました。幸せの状態は、「笑顔あふれる」で表しています。テーマ別将来像を検討する際に、「自立しなければならない。」、「市民と行政と一緒に活動しなければならない。」、「平和でなければならない。」、「安心安全なまちでなければならない。」、「子ども達への教育がしっかりとできなければならない。」といった意見が出てきましたが、これらは「いつまでも笑顔あふれるまち」をつくるために必要な要素であると考えています。

###### **第2分科会発表**

本分科会では、まず、奈良市全体の将来像を考えるにあたり、どのまちの将来像でも使われているような言葉を盛り込まないようにすること、中学生でもわかりやすい表現にすること、短くコンパクトにまとめることに配慮しようということになりました。

これらの点を踏まえて検討した結果、一番賛同者の多かった「日本はじまりの都 世界あこがれの都市(まち)」を、第2分科会が提案する奈良市全体の将来像(案)としました。なかには「都市(まち)」を「奈良」に入れ替えてもよいのではないかという意見もありました。

他に、「世界に誇る、歴史・文化・自然を活かす 豊かなまち 奈良」、「ゆったりと時の流れをつむぐ都市 奈良」が良いという意見もありました。

###### **第3分科会発表**

本分科会では、前回まで「活気あるまちづくり」を図るため、観光産業について検討を進めてきました。今回は奈良市全体の将来像を考えたのですが、本分科会が今まで考えてきたことと、奈良市全体とのつながりを考えた結果、国際社会に奈良の物語を伝えるべきだということになりました。

魅力あるツーリズムプランを、全世界、特に中国・ヨーロッパ・アメリカに伝えていければよいと思います。また物語を発信するため、現在も情報発信サイトはありますが、もっと皆に伝わるようないいものにしていく必要があります。物語を伝えるガイドも必要です。現在、プロのガイドやYMCA、学生のガイドがいますが、それらが連携できるようなシステムにしていければよいと思います。

奈良市の観光産業を本当に活性化させることができるのかという意見が一部であるようですが、奈良市の観光資源は本物なので、自信を持ってビジネスモデルにしていけばよいのではないかと思います。

「ならティブ奈良」の「ならティブ」は「物語を伝える」という意味で、「物語を全世界にしっかりしたシナリオにして、情報ツール・人材をもって伝えていく」ということです。日本の中期戦略は観光産業に多く投資されるようなので、奈良市が上手く物語をつくりあげれば、山焼きなどのイベントを中心とした観光から、より複合的な観光になると思います。これに伴い、奈良市内の交通やホテルのシステムも変わると思います。取り組むにあたっては、行政と観光業界、市民団体が集まった、超一級のビッグプロジェクトを組んでいく必要があるでしょう。市長が市の将来を観光にかけるかどうか、夢を託すかどうかにかかっていると思います。

#### **第4分科会発表**

本分科会では、奈良市全体の将来像は、各分科会から提案されたテーマ別将来像を包括したものであると考え、これらテーマ別将来像を踏まえて「世代を超えて力を出し合い、未来につなげる古都 奈良」としました。

第1分科会のテーマ別将来像の「いつまでも子や孫が」は、「未来につなげる」につながっています。第2分科会の「時を超えた歴史と自然」は、「古都」に、「伝える」は「つなげる」につながっています。第3分科会のテーマ別将来像は、「力を出し合い」、「古都」、「つなげる」につながると思います。第4分科会のテーマ別将来像「世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち」は、そのまま使用しています。第5分科会の「持続可能」については、より多くの方、特に子ども達にもわかりやすいよう、「未来につなげる」と表しています。第6分科会については、財政が健全でなければ「未来につなげる」にはならないし、市民と行政の協働という概念は、私たちが「世代を超えて力を出し合い」まちづくりを担っていくことではないかと考えます。

第4分科会としては、特に「誰がやるのか」という点を奈良市全体の将来像に位置づけておきたいと考え、「世代を超えて力を出し合い、未来につなげる」という表現を含めています。

#### **第5分科会発表**

本分科会では、前回、第5分科会のテーマ別将来像として発表した「持続可能な環境古都・奈良」を奈良市全体の将来像にした方がよいという結論に至りました。第5分科会のテーマ別将来像は、「歴史と未来、都市と田園が共生する奈良」という、前回発表したサブタイトルの部分にしたいと思います。

どの分科会も認識されている課題は同じだと思いますが、本分科会では、市民と生活を中心に据えて検討しています。今後、人口が減少し、経済状況も変化していくなかで、いかにして都市を生存させていくかが大きな課題になると思います。しかも奈良市は世界からの預かり物を抱えています。都市が生存できないからといって、これらの預かり物を投げ捨てるわけにもいきません。奈良市の特徴の1つとして、比較的近い場所に、都市部と田園部が存在していることがあげられます。そのような地域

毎の特徴を活かしながら、大都市圏とも連携を図りつつ、コンパクトシティの構築を進めることが最も重要ではないでしょうか。そうでなければ、都市から排除されてくることが出てきます。例えば子どもをしっかりと育てあげられないまち、お年寄りが暮らしにくいまちとなり、これでは持続可能なまちとは言えません。コンパクトシティの構築が最重要課題であると思います。

#### **第6分科会発表**

奈良市としてどうしても外せないのが、奈良市次期総合計画策定基礎調査の奈良市の望ましい姿に関する設問で回答比率が最も高かった「歴史都市」であり、各委員の考えた市全体の将来像を見ても歴史に関する記述が非常に多くなっています。

第2分科会の発表で「都市」を「まち」と読んだように、本分科会では、「歴史」を「とき」と読み、「歴史(とき)をつなぐ国際観光都市」を、奈良市全体の将来像(案)として提案したいと思います。歴史(とき)のなかには、文化、文化遺産、教育などが含まれています。この歴史(とき)を、過去、現在、未来に「つなぐ」ことが大切だと考えます。奈良市は「国際文化観光都市」と言われていますが、このうちの「文化」は、歴史(とき)に含まれているので、ここでは、「国際観光都市」としました。また、今後、国際化が重要になり、本市の主要産業が観光産業なので、国際観光都市としたという経緯もあります。

### **5. 「奈良市全体の将来像」(案)のまとめ(全体での話し合い)**

ファシリテーター(山崎)が進行。

○「奈良市全体の将来像」(案)のまとめ方について：

まずは意見交換を行い、各分科会から提案された「奈良市全体の将来像」(案)の内容を深める。無理やりに1つにまとめる必要はなく、複数案でも構わない。

○第3分科会、第5分科会のテーマ別将来像についての確認：

第3分科会、第5分科会については、前回、テーマ別将来像として提案していたものを、奈良市全体の将来像として提案する。テーマ別将来像については、別途設定する。

<意見交換の概要> 【凡例】**委**委員意見

#### **【将来像のまとめ方について】**

- ・**委**各分科会が提案した奈良市全体の将来像について、1行だけではわからないので説明して欲しい。
- ・**委**奈良市全体の将来像が6つ提案されているが、それよりもこれに至った経過やこれに込められた意味を確認しながら意見交換をしてはどうか。単にこの中から選ぶのであればこれで構わないが、皆で将来像を考えるのであれば、その背景にある部分を確認しなければならないと思う。
- ・**委**各分科会から奈良市全体の将来像が提案されたが、それぞれの分科会が充分議論したうえで提案したものであるため、これらを1つあるいは2つに絞るのは難しいと思う。第2分科会では、分科会で多くの人が賛同したものを奈良市全体の将来像

として提案したが、分科会内の全ての人がそれに賛同したわけではない。このように、分科会の中でも1つにまとめるのは至難の業だった。

- ・**委**「奈良のまちがこのようになればよい」という言葉はたくさん出てきているが、それをどのようにして実現していくのかという視点がなければ、ただの言葉遊びになってしまう。第3分科会では、まず「奈良市の食い扶持となるものは観光産業しかない」と考え、観光産業を振興させるために必要なことを考えてきた。他の分科会が検討してきた将来の望ましいまちの姿については、実現可能性も加味した、裏付けのある言葉なのかどうか疑問に感じる。
- ・**委**第4分科会は、「総合計画をどう考えていくか」というところから検討を始めた。地方自治法の改正により基本構想の策定義務づけが廃止になれば、基本構想の策定の意味についても考えていかなければならない。このため、今後つくられる基本構想は、これまでつくられてきた基本構想と考え方や位置づけが若干異なっても構わないのではないか。総合計画は必ずしも都市計画、ものづくりといったハードのみを取り扱う計画ではない。「このような背景から、誰がどのような姿勢で取り組んでいくのか」という点を明記しておくことこそ意味があるのではないかと思う。既に各分科会から、明確にテーマ別将来像が打ち出されている。奈良市全体の将来像では、これらを踏まえ、「実際に誰がどのような姿勢で取り組んでいくのか」ということを表現した方がよいのではないかと思う。
- ・**委**各分科会が提案した奈良市全体の将来像を1つにまとめるのは非常に難しいと思う。例えば第3分科会は、様々なビジネスモデルまで提案している。奈良市まちづくり市民会議は、平成23年から10年間を計画期間とする基本構想の骨組みをつくるための会議と認識している。現在、各分科会から提案されている6つの奈良市全体の将来像案を、ある視点から見て優先順位をつけ、併記してはどうか。
- ・**委**奈良市まちづくり市民会議に求められていることは、基本構想の骨組みを検討することである。事業計画を検討していくのは行政や専門家の役割で、我々は施策まで踏み込んで考えていく必要はないと思う。
- ・**委**第4分科会では、10年後あるいはそれ以降、「どのような社会になるか」、「何を大切にしていかなければならないか」という視点を踏まえて、奈良市全体の将来像を検討した。奈良市全体の将来像は、会議日程の都合上、今日、結論を出さなければならない。しかし、このような状態で、まとめるのは難しいと思う。

先ほど、各分科会の代表が集まって代表・副代表を選出しようとしたときも、各分科会の代表が「会議全体の代表・副代表になっても自分では責任が持てない」と思ったことが、決定できなかった理由だと私は理解している。このような経緯もあるので、現在、各分科会から出ている6つの（案）を、全て提案してはどうか。
- ・**委**事務局が、第1分科会から第6分科会までのテーマ、例えば第1分科会については「生きやすいまちづくり」に当たるものを全て足し合わせて6で割る、つまり各分科会のテーマの最大公約数的なもの、市民になじみがあり、全体的に見て恥ずかしくないものを考えるべきではないか。代表・副代表が決まっていない状態で、奈良市全体の将来像を決めるのは難しい。その方が、簡単に将来像が決まる。こ

のままでは、分科会が提案した6つの将来像が錯綜してしまう。

また、代表・副代表の選出については、各分科会の代表が集まり、早く決めてほしい。次回の最終回には立派な将来像が決まり、発表できるようにしてほしいと思う。

- ・**委**皆からの提案を最大公約数的にまとめあげるのは難しいと思う。おそらく、この会議に参加されている方々は、普段から様々な活動に携わり、奈良について様々な思いや意見を持っていると思う。しかし、「誰がどのような思いをもって取り組むべきか」という「姿勢」については、おそらく最大公約数的にまとめられるのではないか。

基本構想のまとめ方については、キャッチコピー1行だけを表記するのではなく、仮にたとえキャッチコピーを1行表記したとしても、その後の説明文で、「奈良市が今後将来像を実現していくうえで、どのような取り組み姿勢で臨むか」を記述し、6つの分科会の（案）を推進していくよう位置づけてはどうか。地方自治法が改正されるため、基本構想については、各自治体がある程度自由に表現することができると思う。奈良市が先進的に、新たな基本構想のあり方・位置づけを打ち出してもよいのではないか。

- ・**委**意見交換のはじめに、「各分科会が提案した奈良市全体の将来像について、1行だけではわからないので説明して欲しい」という発言があったが、この意見の背景には「何を表しているか気になり、詳しく説明を求める」というケースと、「全く意味がわからなくて、説明がなければ理解できない」というケースの2つある。後者のケースは、キャッチフレーズとしてはふさわしくない。しかし、皆が見た瞬間に完全に理解できるような言葉を奈良市全体の将来像としても、何の興味も引かないものになるのではないかという懸念もある。何か特徴あるものを強く打ち出していかなければ、基本構想自体の力も弱くなるのではないか。

#### 【代表・副代表について】

- ・**委**熱意をもって代表・副代表を担ってくれる立候補者がいれば話は別だが、今のままでは代表・副代表は決まらない。そこで、6つの分科会の代表が共同代表という形を取り、市長や審議会に報告してはどうか。また、代表・副代表が個人的な発言をしないよう、共同代表にして、公開の場で市長、審議会に発言するようにしてはどうか。
- ・**委**先ほど代表・副代表が決まらなかったのは、将来像をまとめるうえで、各委員への同意の取り方、作業の携わり度合いと必要な時間がわからなかったからである。共同代表になっても、この点がわからないままだと、代表・副代表になる方はいないと思う。

#### 【提案内の語句について】

- ・**委**「ならティブ奈良」という言葉は、熟した言葉なのか。
- ・**委**「ならティブ」は、「ナレーション」と「奈良」をかけあわせた言葉で、「ナレーション」とは、「語る」、「物語る」という意味である。語感が良いというもの1つの

理由だが、「奈良市は、『人々に語られるべきまち』、『物語に富んだまち』になることが望ましい」と考え、このような言葉をつくった。また接尾語の「ティブ」で、一定の動き、つまり「語られている」、「物語っている」という行動を表している。

- ・**委**「ならティブ」という言葉は、英語で通じるのだろうか。私は新しい言葉をつくっているように思う。私のイメージでは、「奈良」と「ティブ」がつけられた言葉だと思うが、「ならティブ」と言っても、外国の人は理解しづらい。

## 6. 閉会

司会(企画政策課 吉村)から説明。

○自主的な話し合いの場の提供について：

3月5日(金)と、3月12日(金)の午後7時から午後9時まで会議室を確保している。自主的に話し合いを希望される際は、事務局にお知らせいただきたい。利用希望があれば、午後6時半を目処に会議室を開けるようにしておく。

○議事録について：

前回・今回の議事録については、早急に配布する。

今後、事務局から、将来像について委員に確認をお願いすることがあるが、その際には、議事録を確認のうえご検討いただきたい。

○会議閉会にあたって：

- ・次回開催予定日、「ふりかえりシート」の記入・提出期限[平成22年2月24日(水)]を連絡。

### 【次回開催予定】

- ・日時：平成22年3月26日(金)午後7時～

○補足：

なお、会議終了後に、各分科会の代表が「市全体の将来像」のまとめ方について話し合った。その結果、「奈良市全体の将来像」については、1つに集約するのではなく、6つの分科会の「市全体の将来像(案)」を並列でまちづくり市民会議の「市全体の将来像(案)」として提案することに分科会代表6名の総意で決定した。

### 【理由】

- ・各分科会が「市全体の将来像(案)」を考えた際の着眼点がそれぞれ異なっており、各案の順位付けや集約のためには十分な議論が必要
- ・一方で、まちづくり市民会議には委員全員で「奈良市全体の将来像(案)」の集約について議論する時間が残されていない

## 第1分科会 生きやすいまちづくり

【参加者】委員 井上 雅由、木村 宥子、熊野 磯一、本間 香貴 [田中 浩、吉住 秀]  
TF 西上 ありさ

### <全チームのテーマ>

- いつまでも子の笑顔あふれるまち 奈良
- 時を超えた歴史と自然を守り、活かし、伝えるまち (第2分科会)
- ならティブ・奈良 ~観光ビジネスモデルの創造~ (第3分科会)
- 世代を超えて市民が力を出し合い、つながりを育むまち (第4分科会)
- 持続可能な環境古都・奈良 ~歴史と未来、都市と田園が共生する奈良~ (第5分科会)
- 市民と行政の協働と健全財政のまちづくり

### <テーマを決めるに

#### あたったの考え方>

- ・みんなが「なるほど!」と思う言葉
- ・みんなが目指したくなる全体像がよい

### <テーマの背景>

#### ■子どもや子育ての視点から

- ・いつまでも子どもの笑顔輝くまち
- ・いつまでも笑い声の響くまち
- ・魅力と笑顔に溢れるまちづくり
- ・命もえる奈良
- ・100年後の子にわたせる(まち)奈良
- ・子どもが産みたくなる環境
- ・いつまでも子の笑顔

#### ■生きやすさの視点から

- ・世界とつながるまち
- ・いつまでも住んでいたいまち奈良
- ・孫にわたせるまち 奈良
- ・平和が似合うまち奈良
- ・いつまでも日本のふるさと奈良

#### ■協働の視点から

- ・バランスのとれた財政
- ・バランスのとれた人口ピラミッド
- ・行政との壁をなくす
- ・できることから市民の手ではじめる

- ・いつまでも子どもの笑顔輝くまち  
マチ
- ・いつまでも子の笑顔あふれる古都奈良
- ・いつまでも日本のふるさと奈良

奈良市全体の将来像のテーマ

いつまでも笑顔あふれるまち奈良

## 第2分科会 魅力を活かすまちづくり

【参加者】**委員**榎本 正範、小西 完治、澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、山本 善徳 [上野 登統] **TF**桐山 法子

### 【良いと思ったもの】

- ・ 幸せで魅力あるまちは、私達がつくる ← **理由**主体性“つくる”がある
- ・ 奈良のはじまり、日本のはじまり ← **理由**奈良の独自性が出ている
- ・ 世界に誇る文化・歴史～国際都市奈良  
世界平和 ちよっとおこがましい？
- ・ ゆったりと時が流れ、世界遺産にあふれたまち ← **理由**奈良の雰囲気が出ている

### 【使用するキーワード、使用しないキーワード】

- ・ 豊かな自然
- ・ 生活、暮らし、豊かさ
- ・ 安心安全
- ・ 世界遺産は使いたくない ← **理由**魅力は世界遺産だけじゃない  
登録されたどうかの違いだけ
- ・ 世界遺産・自然・エコは使いたくない ← **理由**どの都市でも使いそうな言葉  
奈良独自の要素を入れたい
- ・ オールドタウン・ニュータウン ← **理由**市内でも様々な地域がある  
ニュータウン住民も中心部を  
ある程度意識していると思うので、  
あえて表現しなくても構わないの  
ではないか？

### 【配慮すべきこと】

- ・ 中学生にもわかるような表現
- ・ 短くコンパクトな表現
- ・ 現在の姿ではなく、将来(10年後)の姿をイメージする

### 【最終的に整理】

=候補=

- 世界に誇る、歴史・文化・自然を活かす 豊かなまち 奈良
- ・ 幸せで魅力あるまちは、私達がつくる
- ゆったりと時の流れをつむぐ都市

◎が最もよいので、  
◎を元に改良する

◎日本のはじまりの都市を世界のあこがれの都市へ

“の”が多い。  
空間にする

↓  
首都  
↓  
都

があこがれる

“日本のはじまりの都=世界 あこがれの(まち)へ

都市  
奈良

=第2分科会案(ただし全員賛同ではない)=

“日本はじまりの都—世界あこがれの都市へ”  
まち  
|  
(奈良)

=賛同ではない人の案= 上記2つの○

**理由** 奈良市は日本のはじまりではない など

# 第3分科会 活気のあるまちづくり

【参加者】委員 赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、新堂 順規、友田 達郎、長谷川 庸司、畑中 忠司、  
松森 重博、吉田 俊夫 [寮 美千子] TF 岡田 実成

<p><b>歴史 文化 遺産</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良の始まり 日本の始まり</li> <li>・奈良のこころを 遺産を伝える</li> <li>・歴史・文化・自然を 生かしたまちづくり</li> <li>・世界に誇る文化・歴史 ～国際都市 NARA～</li> </ul> <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな国際文化 交流都市</li> <li>・奈良エコタウンの創造 工芸村</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産への 旅立ちのまち (熊野古道・高野山)</li> <li>・奈良の輝きを 世界につなげる</li> </ul>
<p><b>なら ティプ 奈良の 展開 パターン</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、自然、市民一体 ならティプ・奈良</li> <li>・「ならティプ・奈良」 観光ビジネスモデル</li> <li>・ならティプ・奈良 → → 物語のあるまち</li> <li>・Narrativeなら 語るべきもののあるまち 歴史資産・自然資産・文化資産 遺産ではなく、生きた資産</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>観光の産業化</p> <p>↓</p> <p>活気 = Narrative = 奈良</p> <p>↓</p> <p>語性</p> <p>↓</p> <p>Narrativeなら 私のまちはこんなまち 思わず口をついて出る そんな「語れるまち」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活気あるまちづくりは 観光の振興から</li> <li>・世界の子宿 (サライ)</li> </ul> <p style="text-align: right;">今までの 良いところ</p>
<p><b>人を 全面に した パターン</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来る人にも住んでいる人にも 良いまち、奈良市を</li> <li>・来る人にも、住んでいる人にも 良いまち</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達に 奈良を伝える 「なら」を 子ども達につなげる</li> <li>・文化・芸術・芸能 多様な人の集まるまち</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が つらくても・・・ 頑張る(という前向きなもの)</li> <li>・若者が夢を抱く 奈良まちづくり</li> <li>・「幸せで魅力あるまち」は 私達がつくる</li> </ul>

全体のまちづくりとして  
「活気あるまちづくり」を  
考えていた

↓

**奈良の将来像**

↓

骨格の観光の産業化による  
まちづくりをテーマに

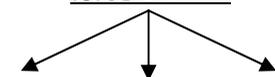
↓

**ならティプ・奈良  
NARRATIVE**

の考え方・  
キャッチを  
おしたい

↓

そこから  
各分科会テーマを  
集約したい



ならティプ・奈良 ～世界の子ども達に物語を伝えるまち～  
↑ 国際交流・未来に伝える

分科会テーマ  
観光ビジネスモデルの創造による  
活気あるまちづくり

# 第4分科会 人をつくるまちづくり

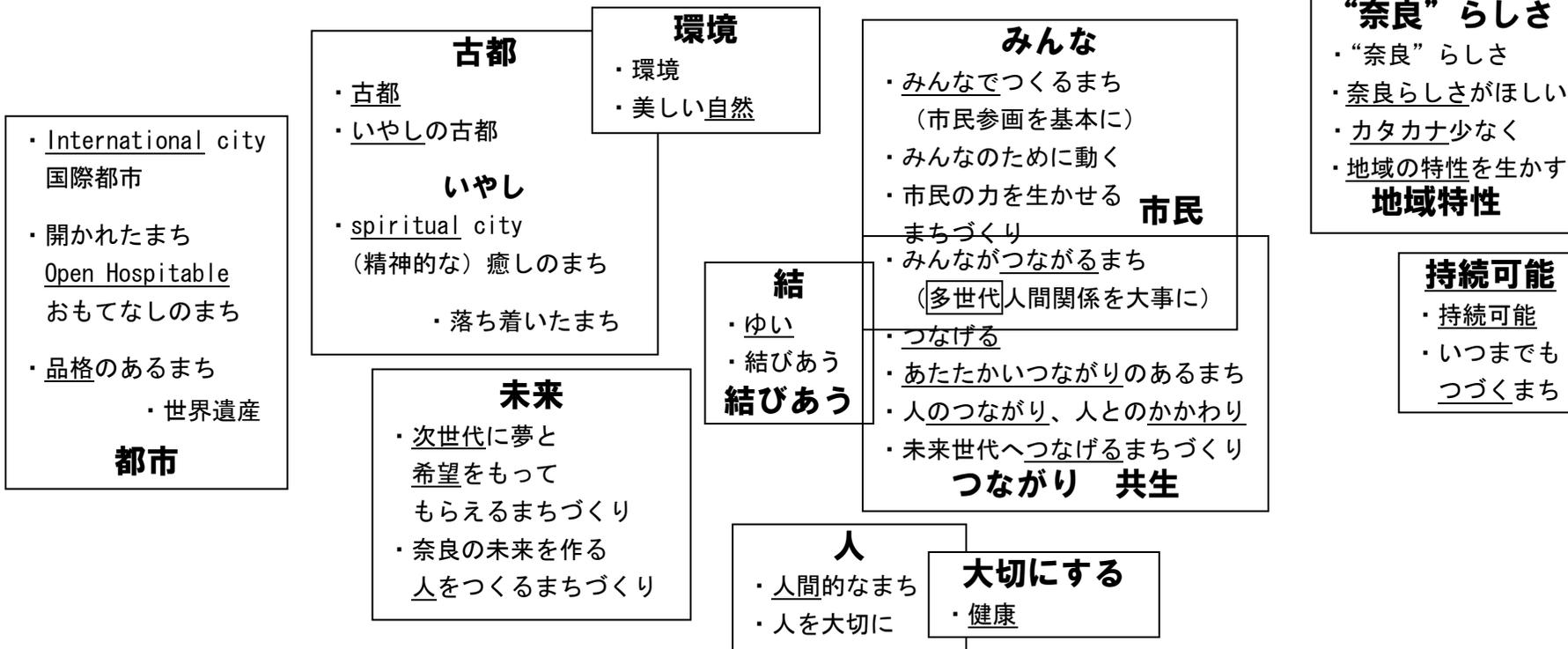
【参加者】**委員** アダルシュ シャルマ、岡本 胤継、奥村 麻希子、北 良夫、笹部 和男、高松 典正、  
宮本 郁江、森口 哲也、山本 素世 [小島 道子] **TF** 醍醐 孝典

## 世代を超えて力を出しあい未来につなげる古都奈良

あらゆる 主体・担い手が ~結果  
世代 市民 みんな

### 奈良、都市、古都

- ・つながる
- ・文教
- ・世代
- ・多様な多様な



# 第5分科会 住みやすいまちづくり

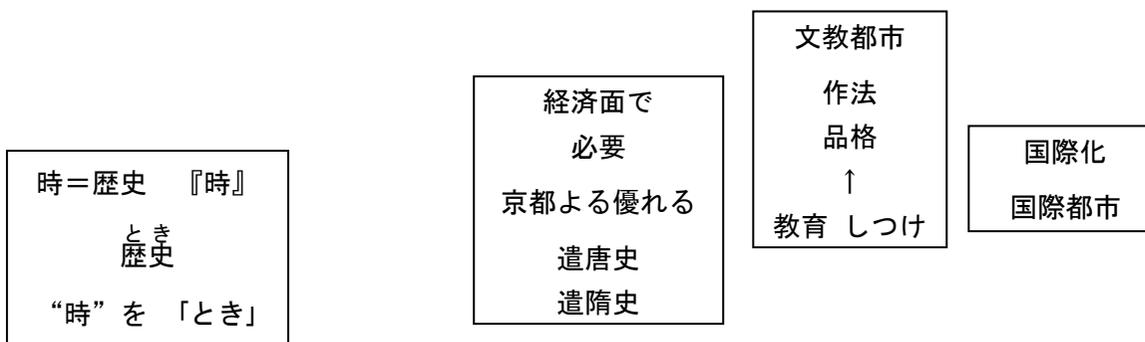
【参加者】委員 北浦 由香、北野 剛人、サマン ペレラ、  
四反田 喬典、反田 博俊、濱 恵介、  
松永 洋介 [田北 ますみ、中西 輝]  
TF 山崎 亮

『歴史と未来、都市と田園が共生する奈良』の背景・方向性・対処方策 一覧表

キーワード		背景(問題点・優れた点)		解決・発展の方向性	取り組みの例示、→は他の欄参照	
全般	大和(奈良)は国のまほろば	日本人の心の故郷、多くの世界遺産、かけがえのない価値＝ブランド力。		正しく認識し、損なわない、守り抜く、さらに価値を高める。	→以下の諸対策へ	
	つなぐ(遺産を継承する、個別性をつなぐ、住み継ぐ)	諸要素の関連付け(横断的・世代を超えた長期的対応)が不十分。都市・環境は先人の遺産、未来世代からの預かり物。		関連づけを強め、将来を見通し全体の価値を高める。良い形で未来世代へずっと継承してゆく。	→歴史遺産の保全、都市インフラや住宅などストックの有効活用、地区間交流へ	
環境的側面	コンパクトシティ、エコシティ	脱・自動車中心の交通システム	自動車優先の交通体系、道路整備。自動車道路の高架化は景観を壊し、地下化は地下の遺物を壊す。自転車・歩行者にやさしくない。大阪・京都などへの電車は便利。	マイカー依存から脱却し、歩行者・公共交通を中心に考え直す。安心して歩ける街を目指す。	マイカー乗り入れ規制・カーシェアリング。歩道・歩行者専用道、自転車専用レーン、LRT(路面電車)の整備、大規模SC出店規制、高速道路建設計画の見直し・一時停止。	
		市街地の拡大抑制	人口減少が顕著なのに開発が止まらない。緑・自然の破壊、歴史遺産への脅威。都市の規模が大きすぎず、高層建築も少ない利点。	「縮小する都市」への対応。各開発・建設が奈良市にとって本当に必要かどうか見直す。制度的不備を検証する。	逆線引き、ダウンゾーニング、緑・溜池など自然的環境の保全、地区計画の活用、新築抑制・ストック活用	
	低炭素化(CO2排出大幅削減)、エネルギー自給率向上	地球温暖化(都市は責任大)、エネルギー資源の枯渇、輸入に頼るエネルギー供給、防災上の弱点、(バイオマス期待の)林業の衰退・人工林の放置。	地域性を生かし、地域で獲得できる自然エネルギーを活用。林業活性化と緊急時への備えも兼ねる。	建築物・運輸・ライフスタイル・公共施設等の省エネ化。再生可能エネルギー活用(木質バイオマス、太陽光発電、太陽熱、ミニ水力、ミニ風力)		
	上水・下水・廃棄物の適正処理と循環	上下水処理・廃棄物処理は適切か? 分別回収しても最後の処理が市民には見えない。雑排水が河川に流入し汚染の一因に。	市は情報公開を徹底する。市民は再資源化に協力する。	ゴミの減量化、分別・再資源化(3R・5R 推進)。公共下水道がある場合、接続の徹底。ない場合は、合併式浄化槽の普及。		
文化的側面	美しい景観形成		全般に見苦しい景観が目立つ(電柱・電線、ケバケバしい巨大な看板、街路樹は強剪定で衰れな姿)、風致地区など限られた区域は努力が実る。	都市の美観・街路景観を阻害する要因を排除する、今後は作らせない。	歴史的街並み保存、無電柱化・電線の地中化、街路樹の丸刈り剪定の中止、高層建築物・屋外広告物・建築物工作物色彩の規制。→地区毎の特徴へ	
	地区毎の特徴・個性を活かす	世界遺産周辺地区	(共通事項) 住民の高齢化、景観の混乱、環境の質的低下	自動車の侵入	観光客も安心して歩ける街に。	奈良公園のエコパーク化(鹿問題の解決も)。
		旧市街・奈良町界隈		古民家を取り壊わし	観光スポットとしての価値を高める。	→街並み保全へ 古民家の外国人宿泊施設化
		西部新興住宅地		緑の減少、商店街の衰退	誰にでも住みやすく品格ある住宅地へ改善する。	→景観対策へ、高齢者・子育て層にも住みやすい街の条件整備。
		東部山間の里山地区		過疎化、耕作・林業放棄	都市住民・若者を活用し活性化を図る。	田舎暮らしプログラム、農林業での雇用機会確保。
	幹線道路沿線地区	看板乱立、これが奈良の玄関口か?	景観を重視した強い建築規制をかける。	→景観対策へ、→脱自動車・マイカー依存へ		
遅れたことがアドバンテージ	「古臭い」という誤った評価。落ち着きがある。	懐かしい未来、周回遅れのトップランナー、エコで先端を目指す。	市民意識の覚醒。歴史遺産、古い街並み・田園風景などの保全。→エコシティへ			
市民としての誇り(シビックプライド)	市民として奈良を自慢したい一方で、恥ずかしいものがある。	恥ずかしい点を誇りの持てる姿・内容に変えて行く。	火葬場(白毫寺)建て替え、街路樹の丸刈り剪定を中止、無電柱・電線地中化等。			
社会的側面	防災・防犯安全	天災が少ないという思い込みがリスク。	様々なリスクに備える。	地域防災、交通安全、防犯。		
	福祉・安心のまちづくり	様々な社会問題。子育て層・高齢者・弱者への対応不十分。	地域・コミュニティが支える福祉。揺り籠から墓場まで、生涯安心して住めるまちに。	近隣での助け合い・相談、ユニバーサルデザイン・バリアフリー。		
	都心と里山など地区間の交流	奈良には歴史的な都心部と自然溢れる田園地域、新興住宅地などがあるが、別々の存在。	各地区の個性を生かしつつ相互の関係性を深めることで、全体の価値を高める。	有機農業・地産地消、“食住”近接、エコシティとエコビレッジ、緊急時の相互援助。		

第6分科会  
市民と行政とのまちづくり

【参加者】委員 植田 正博、武村 俊宏、多田 充朗、田中 保夫、村田 勝彦、元島 満義 [渡邊 新一]  
TF 六本木 晃夫



歴史(とき)を つなぐ 国際 観光 都市

